

## 1. 認知症

認知症は、脳虚血に起因する血管性認知症と神経細胞変性に起因するアルツハイマー型認知症、 および両者の混在するタイプに大別されている

### (表 1)

。血管性認知症では、] 脳梗塞等による虚血が起き、短期記憶障害、視覚障害、脳幹異常、感覚および運動異常障害の] 症状が見られる。危険因子として高脂質血症、冠動脈疾患が知られている。] アルツハイマー型認知症では、アミロイド前駆蛋白質より可溶性アミロイドペプチド ( $sA\beta$ ) が] タンパク質分解酵素により産生され、 $A\beta$  が凝集し脳内に沈着し、老人斑を形成している。] 炎症反応および神経原繊維変化が誘発され、神経細胞が変性・死滅・脱落し、] 脳室拡大・脳萎縮に至ると考えられている。このような脳組織の変化により、] 中核症状 (記銘力低下) およびそれに伴う随伴症状 (情動および運動障害) を呈するようになる。] アミロイド前駆タンパク質、プレセニリン 1 および 2、アポリポタンパク質 E4 は] 遺伝学的解析から危険因子として同定されている。さらに、加齢・脳卒中・高血圧・糖尿病・] 喫煙により血管性認知症とアルツハイマー型認知症のいずれも発症率は高まる。